

愛媛県立医療技術大学の授業アンケート (旧版)

Table 1 授業評価尺度の項目と確認的因子分析結果と因子相関行列 (n=714) 澤田 (2007) より

質問項目(番号)	略称	授業の工夫・準備 α=842	学びの支援 α=586	学生の自己評価 α=754
教員は授業において重要なところを強調してくれた(2)	重要点強調	624		
内容についてわかりやすい説明をしていた(3)	わかりやすさ	736		
教員の授業に対する熱意が感じられた(4)	教員の熱意	641		
教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった(12)	話し方	635		
授業のテーマや目的は、毎回の授業展開の中で明確であった(5)	目標の明確さ	573		
板書、視覚教材、配付資料の使い方が効果的であった(10)	プレゼン	623		
授業内容は授業時間に見合ったものであった(13)	学習量	539		
学生の反応や理解度を把握して授業を進めていた(15)	学生への配慮	518		
教員の授業に対する準備や工夫が十分になされていた(16)	教材準備	641		
私語や遅刻への対処など、教室での学習する雰囲気が保たれていた(6)	環境の整備		.403	
教員は、学生が質問や意見を述べる機会に配慮していた(7)	質問・発言		.590	
質問や発言に対して満足する対応がなされた(8)	対応満足		.750	
自分自身、積極的に授業に参加した(1)	受講態度			.466
この授業を受けてよかった(9)	満足感			.781
この授業から触発されることが多かった(11)	知的好奇心			.691
授業を最初に受けた時と比べて、現在新たな知識や技術が得られたと感じる(14)	修得感			.739
「強く思う(5)」～「全くそう思わない(1)」		学びの支援	478	
		学生の自己評価	794	379

CMIN/DF=3.04, GFI=.949, AGFI=.928, CFI=.940, RMSEA=.053 註) 因子負荷量.30以上のみを記した

結果から見えてくる教授者の“くせ”2007

